

河川の上流域で10月頃産卵し、翌年の4月頃ふ化する。幼稚魚はおもに水生昆虫類を食して成育し、0+の10月頃平均体長9cmに達する。10月頃幼魚の相分化がおり、未成熟で体長の優れた幼魚(体長11cm以上でメスが多数)が変態してスマルトになり12月~1月頃降海する。沿岸海域で1月~4月頃まで約4ヵ月おもに魚を食べて急速に成長する。平均体長約28cmに成長して1+の4~6月に遡河し、10月に産卵する。スマルトにはメスが多数なので、サツキマスもメスが多数(70~80%)、産卵後へい死する。幼魚のうちで変態しないものは河川に残留する。類似の生活史をもつものにサクラマスがある。

生息地の条件

水温20℃以下の冷水域に生息する。したがって遡河後は上流域の清澄な水域に生息し、秋に産卵する。河川と沿岸海域を往復するので、その間に障害物があったり、水質汚濁がおこれば、マスの生息は不可能となり、再生産もできない。

サケ科(サケ属)	湖沼(大)	河川(上流)	河川(中流)	河川(下流)	汽水域	海域(内湾)	沿岸域	外洋
ヒメマス	○	○	○	○				
カラフトマス		○	○	○	○	○	○	○
マスノスケ		○	○	○	○	○	○	○
サケ			○	○	○	○	○	○
ギンザケ			○	○	○	○	○	○
ヤマメ	○	○	○	○	○	○	○	○
(サクラマス)	○	○	○	○	○	○	○	○
アマゴ		○						
<(サツキマス)>	○	○	○	○	○	○	○	
ビワマス	○	○	○					
イワメ		○						

現在の生息状況

古くは西日本日本の主要河川に遡河し、漁獲もされたが、漁業の対象となるほどの漁獲が認められるのは、現在では長良川などの河川に限られる。岐阜県の水産統計によると長良川では近年漁獲が増加してきているが、これは上流部でのアマゴの放流や下流部における降海性アマゴの放流によるものであり、自然の個体群の資源量は不明である。そのほか日本海側の宮津湾でも降海性アマゴの放流が行われている。また、天竜川・宮川・錦川・那賀川などでは、自然に降海したアマゴがまれに見られることがある。

サケ科(サケ属)	国内での分布域	分布域中の分布型	相対的密度	生息数の動向	生息環境の状況
ヒメマス	狭い	局所型	普通	安定	普通
カラフトマス	狭い	局所型	低い	安定	普通
マスノスケ	狭い	局所型	低い	安定	普通
サケ	広い	遷在型	高い	増加	普通
ギンザケ	狭い	局所型	低い	安定	普通
ヤマメ	広い	遷在型	普通	減少	縮小
(サクラマス)	広い	遷在型	普通	減少	縮小
アマゴ	狭い	遷在型	普通	安定	普通
<(サツキマス)>	狭い	遷在型	低い	減少	縮小
ビワマス	狭い	局所型	普通	減少	縮小
イワメ	狭い	局所型	低い	減少	普通・縮小

学術的な意義と価値

日本固有種で、ほかのサケ・マスと比べて分布域が狭い。赤点を有するマスとして形態的にも特異性を有し、サケ科魚類の系統分類上価値が高い。また降海型のサケ属としては世界の最南端に分布し、生態的にも特異なマスである。分布域のほとんどで姿を消している現在、本種の保護を図ることは重要である。

生存に対する脅威

降海性アマゴが自然状態で生息するには、上流から河口まで遡上に支障となる工作物がなく、また良好な水質が保たれる必要がある。各地の河川でダムや堰の設置、水質の悪化が進んだ結果、現在では、自然の個体群の生息域は長良川にほとんど限られるようになった。種苗放流により長良川などでは、漁獲高は増加傾向にあるが、本種の存続のためには自然の個体群が生息し得る環境が確保されることが必要である。

参考文献

- 藤村治夫, 1970. 山口県錦川におけるアマゴの生息について, 水産増殖, 17(3):101-103.
 本庄鉄夫ほか, 1980. 降海性アマゴの増殖, 日本水産資源保護協会, 東京.
 Jordan, D. S. and E. A. McGregor, 1925. Family Salmonidae. Pages 122-146 in "Record of fishes obtained by David Starr Jordan in Japan, 1922. Mem. Carnegie Mus., 10(2):93-347" published by Jordan, D. S. and C. L. Hubbs.
 加藤文男, 1973a. 伊勢湾で獲れたアマゴの降海型について, 魚類学雑誌, 20(2):107-112.
 -----, 1973b. 伊勢湾へ降海するアマゴの生態について, 魚類学雑誌, 20(4):225-234.
 -----, 1975. 降海型アマゴの分布について, 魚類学雑誌, 21(4):191-197.
 宮地佐三郎・川那部浩哉・水野信彦, 1976. 原色日本淡水魚類図鑑, 保育社, 大阪.